

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	飛騨あさひイベント開催事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3632
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ、地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	不特定多数
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域資源を最大に活かした観光イベントの開催により、住民とのふれあい、交流人口の増大を図ることができる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・水芭蕉祭り、すずらん祭り、ドスコイ祭り、クリスタルライブinあさひ、氷点下の森氷祭りを開催する、イベント実行委員会への負担金		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・水芭蕉祭り、秋神川アマゴ釣り大会、すずらん祭り、ドスコイ祭り、クリスタルライブinあさひ、氷点下の森氷祭りの6イベント																																																																																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>単位</th> <th>目標・実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">活動指標</td> <td rowspan="2">イベント回数</td> <td>目標値</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td rowspan="2">交流人口</td> <td>目標値</td> <td>10,000</td> <td>10,500</td> <td>10,500</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>7,362</td> <td>6,831</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果指標</td> <td rowspan="2">自己負担率</td> <td>目標値</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>23</td> <td>26</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td>74</td> <td>65</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">算出根拠等</td> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26	活動指標	イベント回数	目標値	6	6	5	実績値	6	6	-	成果指標	交流人口	目標値	10,000	10,500	10,500	実績値	7,362	6,831	-	成果指標	自己負担率	目標値	20	23	25	実績値	23	26	-	算出根拠等		達成率(%)	74	65	-	目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)				算出根拠等		目標値				実績値				算出根拠等		達成率(%)				目標値				算出根拠等		実績値				達成率(%)			
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26																																																																																						
	活動指標	イベント回数	目標値	6	6	5																																																																																						
			実績値	6	6	-																																																																																						
	成果指標	交流人口	目標値	10,000	10,500	10,500																																																																																						
			実績値	7,362	6,831	-																																																																																						
	成果指標	自己負担率	目標値	20	23	25																																																																																						
			実績値	23	26	-																																																																																						
	算出根拠等		達成率(%)	74	65	-																																																																																						
			目標値																																																																																									
	算出根拠等		実績値																																																																																									
			達成率(%)																																																																																									
	算出根拠等		目標値																																																																																									
			実績値																																																																																									
算出根拠等		達成率(%)																																																																																										
		目標値																																																																																										
算出根拠等		実績値																																																																																										
		達成率(%)																																																																																										
補足事項																																																																																												
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額																																																																																							
	歳出(千円)		(A) 10,099	8,999	6,100																																																																																							
	受益者負担(使用料・負担金等)																																																																																											
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)																																																																																											
	一般財源		10,099	8,999	6,100																																																																																							
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,372	1,317	813																																																																																							
	受益者	入込数	(B) 7,362	6,831	7,500																																																																																							

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・四季折々の地域風土を活かしたイベントだけに住民の憩いの場・交流の場でもあり、体験型の内容については良い反響である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・伝統ある集客率の高いイベントを実施することにより、地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	C	・集客数を更に増やす為、各種内容を工夫する必要がある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・限られたイベント負担金の中で必要最小限の経費で取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・地域資源を活かした観光イベントの実施により、地域住民の意識の高揚は図られたが、自主開催事業に向けた事業内容にする課題がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	5 / 10	→	100点換算	50 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・来客者の関心が高まるような仕掛けづくり等、市を挙げたイベントに発展させるために具体的な取り組みを検討する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・観光イベント運営委員会、道の駅イベント運営委員会、水祭り運営委員会、飛騨あさひ旅館組合により今後のまちづくりの方向性や観光振興事業のあり方について精査を行い、次年度から自主事業としての実施体制について十分検討する必要がある。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199	ふるさと体験事業 (グリーン・ツーリズム推進)		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3632
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	<input type="radio"/> A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		<input type="radio"/> B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		<input type="radio"/> C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	観光振興費		<input type="radio"/> D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ・飛騨高山の自然環境を利用したグリーンツーリズム(自然に親しむ旅行)に加え 温泉や高山で作られた高品質の食材を使ったヘルスツーリズム(健康に良い旅行)、 自分だけの製品をつくるクラフトツーリズム(モノづくりの旅行)など、地元の 産業と一体となった新たな旅行スタイルを生み出します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客	対象者数	不特定多数
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・都市住民との心の交流を通じてグリーン・ツーリズム活動を推進し地元産業の潤いと高齢者・女性等の生きがいがつくりをを図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・龍巖山ミニ登山、御岳登山と自然観察会、すずらん大根と野菜のオーナー、子ども農山漁村交流プロジェクト事業、東海雪合戦大会に向けた調査・研究・実施		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・養蚕、御岳登山と自然観察会、すずらん大根と野菜のオーナー、子ども農山漁村交流プロジェクト事業、東海雪合戦大会					
	指標名						
		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	体験イベント回数	回	目標値	4	4	5
			実績値	5	5	-	
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)	125	125	-	
			目標値	700	2,500	2,000	
	成果指標	体験イベント参加者	人	実績値	2,572	2,154	-
			達成率(%)	367	86	-	
	成果指標	算出根拠等	目標値				
			実績値			-	
	成果指標	算出根拠等	達成率(%)			-	
			目標値				
	成果指標	算出根拠等	実績値			-	
			達成率(%)			-	
成果指標	算出根拠等	目標値					
		実績値			-		
成果指標	算出根拠等	達成率(%)			-		
		目標値					
成果指標	算出根拠等	実績値			-		
		達成率(%)			-		
補足事項							
・地元の産業と一体となった新たな旅行スタイルが出来つつある。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 800	700	700		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		800	700	700		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 311	325	350		
	受益者	参加者	(B) 2,572	2,154	2,000		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・集客の手段として自然環境を利用したグリーン・ツーリズムへのニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・グリーン・ツーリズム推進事業により、市民と行政が一体となり交流人口の拡大を図っており、地域の活性化を図る上で市が参画することは妥当である。 ・今後体験型交流事業を推進していくうえでは、幅広い民間関係者に参加していただけるよう検討する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・体験交流の利用人数は増加傾向にある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・必要最小限の経費で取り組んでおり、適正である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・地元産業と一体となった、体験型交流事業が行えた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・グリーン・ツーリズムにむけた取り組みの認知度は高まっているが、体験者の関心が高まるような更なる仕掛けづくり等、市を挙げた事業に発展させるために具体的な取り組みを検討する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域内外への紹介をインターネット・ブログ等を活用し、体験者の関心が高まるような仕掛けづくりを行うとともに、次年度以降自主事業としての実施体制を整える必要がある。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/> H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/> H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95199 福祉	スランカップJrクロスカントリー大会開催事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線 3622
予算	会計	1 一般会計	特別 予算 の 位置 付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び競技選手	対象者数	91,605 人
	どのような状態にしたいのか(意図)	・県内唯一のジュニア対象のクロスカントリー大会を開催し競技力向上と青少年の健全育成を目指す		
概要	事業の実施手法(手段)	期 日 平成27年2月第2日曜日 会 場 鈴蘭高原クロスカントリーコース 部 門 小学生、中学生・高校生の部(男女) 内 容 クロスカントリースキー(フリー)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	期 日 平成26年2月9日(日曜日) 会 場 鈴蘭高原クロスカントリーコース 参加者 小学生(男子16人、女子9人)、中学生(男子17人、女子9人) 計57人 内 容 クロスカントリースキー(フリー)					
	指標名						
	活動指標	スランカップクロスカントリー大会の実施	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
	算出根拠等	達成率(%)				100	
	活動指標	参加者数	人	目標値	55	65	80
				実績値	48	57	-
	算出根拠等	達成率(%)				87	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
	算出根拠等	達成率(%)				-	
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
	算出根拠等	達成率(%)				-	
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円) (A)		500	500	1,300		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		500	500	1,300		
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		10,417	8,772	16,250		
	受益者	大会参加者 (B)	48	57	80		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準			評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
		A(2)	B(1)	C(0)			
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A(2)	ニーズが高い		A	・県内で開催される小学生から高校生までが参加可能な大会は当大会のみであり、関係者からのニーズは高い	
		B(1)	ある程度のニーズがある				
		C(0)	ニーズが低い				
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A(2)	事業主体を見直す余地はない		B	・実行委員会による大会実施としているが、競技力向上、選手育成には競技団体が実施することが望ましい	
		B(1)	一部見直しが必要である				
		C(0)	市が実施する必要性が低い				
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A(2)	目的とする成果が十分にあげられている		B	・県内で開催されるジュニアを対象とした大会は当大会のみであり、市民以外にも県内から選手が参加し、活躍の場となっている	
		B(1)	目的とする成果がある程度あがっている				
		C(0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A(2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない		C	・同時期に当地で開催される大会との経費分担を行いコスト削減に努めてきたが、対象となる大会が1つ減ったことにより負担増となっている ・参加者数1人に対するコストは大である。	
		B(1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
		C(0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A(2)	効果があった		C	・地域の特性を活かしたスポーツの推進ではあるが、競技人口の減少に伴い、実行委員会の負担増が大きい	
		B(1)	ある程度効果があった				
		C(0)	あまり効果が見られなかった				
合計		4	/	10	→	100点換算	40 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

- ・参加者が少ないので、大会当日までの期間を利用し未経験者への講習会等を実施し、競技の魅力や伝えと供に、競技者の確保を促す必要がある。
- ・実行委員会が主体となって実施しているが、競技団体の協力が不可欠である。協議団体が主体となる公認大会の開催を誘致する活動が必要である。
- ・ローカルな大会であるが、市民、県民のみならず県外へも大会開催の周知と参加者募集を行う必要がある。

(参考) H25事業評価結果(二次評価)

- ・特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。
- ・各種効果について分析を行い、スポーツ大会誘致のあり方について検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

- ・参加者の増加に向けた取組みの検討

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	3	民生費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	社会福祉費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	老人福祉費		D	その他事業	
根拠計画	高山市老人福祉計画						
市長公約	5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要介護者等への地域福祉体制を整備します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,751 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開と町づくりへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
				実績値	9,584	9,677	-
				算出根拠等	達成率(%)	96	97
	活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	140
				実績値	139	138	-
				算出根拠等	達成率(%)	97	99
	活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
				実績値	38	37	-
				算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口	達成率(%)	95
	活動指標			目標値			
				実績値			
				算出根拠等	達成率(%)		
	活動指標			目標値			
実績値							
算出根拠等				達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			150	149	280	
	一般財源			270	271	140	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	653	640	659	
	受益者		朝日区会員数(4月1日現在)	(B)	643	656	637

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進することを目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・市域全体として、新規加入者が少なく、連合長寿会会員加入率及び単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72199	市道未登記用地測量事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	該当なし						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,812 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市道未登記路線の整備		
概要	事業の実施手法(手段)	市道未登記箇所の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄付により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	2路線の調査(境界立会、相続関係)及び測量を実施。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	所有権移転登記筆数	筆	目標値	28	20	27
				実績値	0	11	-
	算出根拠等			達成率(%)	0	55	-
	成果指標	登記延長	m	目標値	1,580	1,630	600
				実績値	0	300	-
	算出根拠等			達成率(%)	0	18	-
	成果指標	調査延長	m	目標値	1,580	1,630	600
				実績値	1,580	300	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	18	-
	算出根拠等			目標値			
実績値							
算出根拠等			達成率(%)				
算出根拠等			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)			(A) 307	2,640	7,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			307	2,640	7,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)			(A/B) 164	1,436	3,863	
	受益者			(B) 1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・土地所有者の権利主張によるトラブルを防ぐために所有権移転登記の整理は必要で、市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・道路用地の取得は市が行うものである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	C	・土地相続問題の解消に時間を要し手間取っている。 ・公図と現地との相違があり、境界が確定しにくい。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	市の登記業務委託単価で契約している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	事業完了路線において、土地所有者の権利主張によるトラブルを防ぐことができる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		5 / 10	→	100点換算 50 点

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・専門的部署を設置し、重点的に事業を進める必要がある。 ・単価契約ではなく、工程毎に積算を行い入札発注するのが望ましい。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるような積極的に取り組んでいく必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・未登記路線の現状課題等を精査し、重要路線を先行して実施する。
-----------------	---------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94199	花いっぱい運動推進事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます。 ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の住民	対象者数	1,812 人
概要	どうい状態にしたいのか(意図)	・花いっぱい運動に参加する町内会や、地域の社会教育団体など広く募集し、花苗を配布して、朝日地域の景観保全を図る。 ・花壇づくりを通して、地域の子供から高齢者まで一体となった交流の場とする。		
	事業の実施手法(手段)	・花苗、チューリップの球根を購入し、希望する団体などへ配布する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 指標	H25の実績	・マリゴールド(黄・橙) 各42TR ケイトウ(赤)31TR ・チューリップの球根(黄・赤・桃)各1,300個					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	参加団体	算出根拠等	団体	目標値	21	20	20
				実績値	17	17	-
	算出根拠等	算出根拠等		達成率(%)	81	85	-
				目標値			
	算出根拠等	算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
	算出根拠等	算出根拠等		目標値			-
				実績値			-
算出根拠等	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値			-	
算出根拠等	算出根拠等		実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 597	521	600		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		597	521	600		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)	(A/B) 35,118	30,647	35,294			
	受益者	(B) 17	17	17			

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	合併前から花苗の配布を継続実施しており、参加団体はフラワーコンクールなどに応募して、市民に見ていただいている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市で花苗を購入して、地区社教に協力を得て各地区、団体へ配布しているため、事業主体を見直す必要はない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	子供会の参加が少し減っているため、参加団体の目標値が少し下回った。しかし町内会の参加は変動はない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	前年度の実績を踏まえ花苗・球根の数や種類を見直し、育てやすい花苗に変更し、より効果的な事業となるよう取組んだ。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	総合計画では、四季の花々で採られた親しみある地域個性の創出を目指しているため、その一貫として重要な事業になっており、朝日町内の景観保全に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・ニーズを理解し、花の種類や数を検討する。
---------------------------------------	-----------------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・特例期間終了にともなう次年度以降の実施について地域の意向を把握する。
-----------------	-------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699	ひだ朝日伝統文化祭助成事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ◎伝統文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動を共に浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1パーセント以上確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町民)	対象者数	1,812 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域芸能・工芸を一堂に集める発表会・展示会を行う文化祭の開催により、貴重な伝統文化・芸術を後世に継承し残すと共に、地域間の住民の交流を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	「ひだ朝日伝統芸能文化祭」を秋季に開催する。 事業実施主体 朝日地区社会教育推進委員会		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	伝統芸能の発表や、伝統工芸の展示発表などによる、朝日地域の伝統文化・芸術への理解が深まった。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	来場者(参加者含む)	人	目標値	500	500	500
				実績値	500	500	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				達成率(%)			-
	算出根拠等			目標値			
				実績値			-
算出根拠等			達成率(%)			-	
			目標値				
算出根拠等			実績値			-	
			達成率(%)			-	
算出根拠等			目標値				
			実績値			-	
算出根拠等			達成率(%)			-	
			目標値				
算出根拠等			実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 600	500	500		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		600	500	500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 320	272	276		
	受益者		(B) 1,873	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	住民が地域文化・芸能・工芸に触れる貴重な機会となっており、盛況に開催されている。発表を通して地域住民の交流の機会となっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	朝日地区社会教育推進委員会が補助を申請し、効果的な事業を行っている。また、類似の活動を行っている団体は無いので実施主体を見直す必要はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	成果の目標を達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	コスト面、事業内容を精査し、効果的・効率的な事業運営を行い、事業の開催に取り組んだ。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	文化振興事業は市長の公約に位置づけられており、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出を図る上で効果が出ている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	予算の減額も踏まえ、事業規模の縮小やコストの削減による見直しを図る。
---------------------------------------	------------------------------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	内容の精査とコスト削減を行い、協働のまちづくり組織で継続実施できるよう体制を整える。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94699	地域文化振興事業費		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○	B 一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6	文化振興費		D	その他事業	
根拠計画							
市長公約	9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ◎伝統文化の振興を積極的に支えます。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動を共に浸透させ、広げていくために、芸術文化の保存と継承、新たな芸術文化の創出のための予算を総予算枠の1パーセント以上確保します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町民)	対象者数	1,812 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	優れた芸術文化に接する機会を創出し、市民に心豊かな生活を営む場を提供し、魅力ある地域づくりを創出すると共に、地域の文化団体における自主事業開催のための基礎づくりを目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	講演会や演奏会など芸術鑑賞を開催する。 事業実施団体 朝日地区社会教育推進委員会		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・米良美ー トーク&コンサート					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	来場者	人	目標値	300	300	300
		算出根拠等		実績値	380	300	-
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	127	100	-
				目標値			
	成果指標	算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
	成果指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			-
成果指標	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
成果指標	算出根拠等		実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	1,500	1,400	1,200	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,500	1,400	1,200	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	801	762	662	
	受益者		(B)	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	世界的な優れた音楽に触れる貴重な機会になり、住民の豊かな感性を育む機会の提供が出来た。例年、満席になるほど地域住民が楽しみにしている事業である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	朝日地区社会教育推進委員会が補助金を申請し、効果的な事業を行っている。同様の活動をする地元団体は無く、社会教育推進委員会が補助を受けて活動するものであり、事業主体を見直す必要はない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	地域住民が優れた芸術に触れる貴重な機会を創出するため、関係機関と連携し有効な事業となっており、目標も達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	事業実施後に関係者による意見交換を行い、効果的・効率的な事業の開催に取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	市長公役位置づけられ、芸術文化を創出・保存・継承を行う上で重要な機会となっており、特に芸術の創出と潤いある生活を醸し出すうえで効果が出ている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		8 / 10	→	100点換算 80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	より効率的、効果的な事業の開催するための見直し。
---------------------------------------	--------------------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特別期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	より効果的な事業の開催のために見直しを行うとともに、協働のまちづくり組織が継続実施できるよう体制を整える。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	94799	市指定文化財保存事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D	その他事業	
根拠計画	市指定文化財保存計画						
市長公約	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値がある有形無形の伝統文化や、文化財などの資源を保存活用する。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	天然記念物、有形文化財等は貴重な国民的財産であり、保護管理に努め後世に伝えていく大切な責務を持っている。説明板等を設置し、その重要性と意識啓蒙を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定文化財石柱設置 ・集鞍登山道石仏祠設置		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・指定文化財石柱設置					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	石柱設置数	個	目標値	5	5	2
				実績値	5	5	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	成果指標	対象文化財に占める設置済み石柱の比率	基	目標値	100	100	100
				実績値	77	88	-
	算出根拠等			達成率(%)	77	88	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				目標値			
算出根拠等			実績値			-	
			達成率(%)			-	
補足事項							
・石柱については、指定文化財のうち有形文化財等を対象として設置しており、継続事業として所有者(管理者)への認識が高まっている。 ・登山道の石仏発掘調査は朝日村時代より実施しており、公募等により広く周知され保護活動に取り組まれている。							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 918	966	1,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		918	966	1,000		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 10	10	11		
	受益者		(B) 93,312	92,861	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市民意識の向上を図るため文化財保護や継承に対する工夫が必要である。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・全市民的な遺産として捉え、文化財の保護と意識啓蒙を図る観点から保存活用していくべきものであり妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・継続事業として計画に沿った実績となっており、目標値は概ね達成されている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・石柱や看板の作成の作成設置については入札で行い経費削減に取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・歴史的、社会的に価値ある文化資源を再認識し、保存活用していくために必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・より効率的、効果的な事業の開催をするための見直し。
---------------------------------------	----------------------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・平成26年度までに完了できるよう計画的にすすめる必要がある。
----------------------	---------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・コストを削減しながら貴重文化遺産として後世に継承していく責務から、その必要性や妥当性を考慮して取り組む。
-----------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	95199	スポーツフェスタ助成事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線
	95199				3622
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置づけ	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 体育総務費		D	その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域内市民対象	対象者数	1,812 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・余暇の時間増大により物質的充足感より心の豊かさなど精神的充足感が強く求められるようになり、日常生活に定着した活動により参加しやすい軽スポーツの機会を開催することにより、地域の活性化につなげたい		
概要	事業の実施手法(手段)	期 日 平成26年10月2日(日曜日) 会 場 こだま館、朝日小学校グラウンド 内 容 ビンゴだボード、ダーツ、グラウンドゴルフ、わなげ、空き缶積み、ストラックアウト他		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	期 日 平成25年10月6日(日曜日) 会 場 こだま館、朝日小学校グラウンド 内 容 ビンゴ、ボード、ダーツ、グラウンドゴルフ、わなげ他					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	スポーツフェスタの開催	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
	活動指標	参加者数	人	目標値	150	150	150
				実績値	100	60	-
	活動指標	算出根拠等	年1回	達成率(%)	100	100	-
				算出根拠等	67	40	-
	活動指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			-
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)			-
				算出根拠等			-
	活動指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			-
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)			-
算出根拠等						-	
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 150	150	150		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		150	150	150		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,500	2,500	1,000		
	受益者		(B) 100	60	150		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	C	・市民の生活形態、趣向性が多様化している中で、若者の参加が少なくなりつつある ・無くても支障のない事業である
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・行政が市民のためのスポーツ推進、健康増進を行うためには必要な事業である ・行業シーズンのため、開催時期の検討が必要である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	・市民の休日の過ごし方も多様化しているため、参加者が子供とその保護者に偏り参加者が少ない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・事業費の約65%を新種用具の購入費に使用しており、使用頻度の少ない用具等は他地域と融通しあう等の工夫が必要である
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	C	・軽スポーツを通じて子供から高齢者までが1カ所に集まり、触れ合うことができる数少ない行事であるが、参加者の偏りがある
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	2 / 10	→	100点換算	20 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・フェスタ1日だけの実施ではなく、ある程度の期間を設け練習を通じた軽スポーツの普及する等、各地域・団体への宣伝が必要 ・スポーツと健康増進をうまく組み合わせたプログラムを作成することが必要 ・開催時期の検討と地域の大切な行事としての位置づけが必要
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業の有効性・効果を検証し、次年度からの自主運営体制を整える。
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	53299	林業関連施設廃止事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3631
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3	林業費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	林業振興費		D	その他事業	
根拠計画	該当なし						
市長公約	該当なし						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者	対象者数	1,899 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	当該施設は、かつて目的をもって導入されたが近年では利用頻度が著しく低くなり、その役割を全うしたと判断される。また、施設の老朽化による危険性が高まっていることから、解体撤去し整然とした景観を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	林業関係施設 2施設(緑と木のふれあい休憩所、あさひの森トイレ)の解体撤去。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	実績は無し。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	解体撤去施設数	施設	目標値			2
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	成果面			目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	成果面			目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	成果面			目標値			-
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	補足事項						
施設の老朽化による利用者の危険性を回避できるとともに、整然とした景観を確保することができる。							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	1,500	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					1,500	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)		790		
	受益者		(B)		1,899		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H25事業評価結果(二次評価)

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況
 ・行政財産の廃止について関係部署との調整は終了し、岐阜県に対する財産処分報告も終了している。
 ・2施設の解体撤去は、1施設は7月下旬までに、残る1施設は9月下旬までに完了する計画。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	61199	道の駅周辺整備事業		担当課	朝日支所基盤産業課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	商工費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	商工振興費		D	その他事業	
根拠計画	該当なし						
市長公約	該当なし						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域市民	対象者数	1,812 人
概要	どういう状態にしたいのか(意図)	道の駅への集客増と地域住民の生きがいがいづりの場とする。 利用者の安全を確保する。		
	事業の実施手法(手段)	道の駅のイベント広場をグラウンドゴルフ公認コース設置可能な多目的広場に改修する。 道の駅のちびっこ広場を移設する。(安全確保、駐車場拡張)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	多目的広場A=3,000㎡の改修。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	グラウンドゴルフコース設置	件	目標値		1	0
				実績値		1	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	-	-
	成果指標	利用者数	人	目標値		500	1,000
				実績値		100	-
	算出根拠等			達成率(%)	20	-	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)		-	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)		-	-
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	9,807	18,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				9,807	18,000	
	一般財源						
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)		5,336	9,934		
	受益者	4/1現在の朝日地域住民	(B)	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・グラウンドゴルフ人口の増加により、プレイコースの需要が高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・当該施設は市が所有し、指定管理者に管理を委託している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・グラウンドゴルフコースの芝の生育に時間を要し、予定よりコース解放が遅れた。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・設計はコスト削減を図り、適正に工事を施工した。
		B (1) 事業効率化・コスト削減がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	・市長公約および総合計画がない。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・芝の生育期間を考慮し、コース解放の適正な時期を決定する必要がある。 ・PR活動の強化。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・グラウンドゴルフ場の宣伝を行い利用者の確保(誘客) ・道の駅のちびっこ広場を移設する(安全確保、駐車場拡張)
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・道の駅の指定管理者である「(株)サンサンあさひ」とタイアップし、集客増を図る。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62499	乗鞍・御岳登山道管理事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	1	積極的な観光振興策を実施します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します ・観光まちづくりを持続可能なものとするため、飛騨地域の民間組織と行政、観光関係者をはじめ地域住民などの関係者と幅広く連携し、広域ネットワーク化を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	登山道来訪者	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか(意図)	来訪者が安全に自然に親しめるよう、乗鞍及び御岳登山道の維持管理と環境整備を実施する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・業務委託により、下層植物について登山道の刈り払い等を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	乗鞍青屋登山道 4km 0.8haの刈り払い					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	委託業務回数	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
	算出指標			目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	算出指標			目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	算出指標			目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	599	210	200	
	財源内訳						
	一般財源			599	210	200	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)				
	受益者		(B)				

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・登山者からの安心安全な通行に対してのニーズがある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・維持保全管理に対して市が参画する必要性はあるが、関係者との調整も検討課題である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	B	・地元精通者への業務委託で事業成果はあがっているが、定期巡視等を行い整備箇所の実施計画が必要である。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	C	・山岳森林地帯の整備のため、精通者による業務委託となる。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・自然環境への配慮とともに、利用者が不透明であり費用対効果の検証が必要である。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	4 / 10	→	100点換算	40 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・登山道の延長が長く、継続的な刈り払いの実施が困難な状況となっており、登山愛好者や地元関係者との協働による整備が実施できるような取り組みが必要である。
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・民間組織等と連携して事前の現地踏査を行い、整備箇所を検証し事業実施する。
-----------------	---------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31399	福祉センター用地購入事業	担当課	朝日支所 地域振興課	内線
種別	福祉				3611
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3 民生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1 社会福祉費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3 老人福祉費		D	その他事業
根拠計画					
市長公約					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町)	対象者数	1,812 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土地開発基金保有地(福祉センター用地)の買戻し		
概要	事業の実施手法(手段)	合併前に土地開発基金で購入した福祉センター用地(駐車場用地)の買戻しを行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績						
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	3,700	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					3,700	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)		2,042		
	受益者	市民(朝日町)	(B)		1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価 対象 外	H26新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価 対象 外	H26新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価 対象 外	H26新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価 対象 外	H26新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価 対象 外	H26新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	42299	食用油リサイクル事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 予算 の 目	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	4	衛生費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	清掃費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2	塵芥処理費		O	その他事業	
根拠計画							
市長公約	8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります。 環境保全に取り組みます。 ・地球温暖化の対策、生物多様性の保全活用など、環境保全は今を生きている全ての人々が取り組まなければならない重要な問題であるため、バイオマスの利活用や間伐材・林地残材製品の開発など環境改善につながる取り組みを支援します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	回収(朝日・高根町・国府地域)	対象者数	91,605 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	使用済み食用油を回収、精製処理し、リサイクルバイオ燃料として使用することにより市民のリサイクル意識の向上を図るとともに、地球温暖化対策を推進する		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 一般家庭より排出される食用廃油を拠点施設において定期回収する 回収廃油を処理施設で精製し、バイオ燃料として活用する 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 面	H25の実績	・廃油の定期回収とBDF燃料の精製給油					
	指標名						
		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	廃油回収量	ℓ	目標値	2,500	2,000	1,500
				実績値	1,600	1,330	-
	算出根拠等			達成率(%)	64	67	-
	活動指標	燃料精製量	ℓ	目標値	2,500	2,000	1,200
				実績値	1,640	1,120	-
	算出根拠等			達成率(%)	66	56	-
	成果指標	燃料使用量	ℓ	目標値	2,500	2,000	1,200
				実績値	1,680	1,030	-
	算出根拠等			達成率(%)	67	52	-
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
算出根拠等			目標値				
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 179	84	210		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		179	84	210		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 2	1	2		
	受益者		(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	リサイクル等、環境保全への取り組みは重要な課題であるが、回収量が減少傾向にあり市民意識の向上を図る必要がある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	精製燃料は公用車での使用に限定されており、安定した需要は見込まれないが現状民間による回収ルート等が確保されつつあり、検討が必要
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	一般家庭からの回収が減少しており、リサイクル意識の向上を図るとともに回収範囲等の拡大が必要
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	回収及び精製はシルバーへ委託し、月1回拠点集積所での回収と需要に応じた精製業務を行っている
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	精製燃料は公用車での使用に限定され、需要と供給の比率を考慮した事業展開が必要
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		4 / 10	→	100点換算 40 点

分析・評価で明らかになった課題 (FA)評価にするために何が必要なかを記入)

・廃食油の分別回収と再資源化は地球温暖化防止対策や環境保全の一環とした取り組みであるが、精製燃料の利用方法と回収方法の検討が必要。

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)

・環境に対する効果、コスト面、精製処理した油の需要等を比較し、全市の事業の実施方針・規模について検証が必要である。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況

・公用車のエンジン機能低下が表面化し、燃料の継続使用が困難な状況のなか、他利用の模索や回収の継続について検証が必要。

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	51399	モンキー犬活動支援事業		担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3642
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	農業費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	農業振興費		D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画						
市長公約	3	産業の柱としての農業・林業・畜産業を確立します ・有害鳥獣対策が緊急の課題であるため、駆除と防除事業を強化し、併せて駆除鳥獣の加工販売等活用方策について具体的に取組みます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	朝日地域の市民	対象者数	533
	どういう状態にしたいのか(意図)	・モンキー犬出動を強化し、安心して暮らせる地域づくりをめざす。		
概要	事業の実施手法(手段)	・モンキー犬の活動に対する助成。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・モンキー犬6頭、計190回の出動があった。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	モンキー犬出動回数		目標値	420	420	360
				実績値	271	190	-
		算出根拠等	10回×6ヶ月×6頭	達成率(%)	65	45	-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
		算出根拠等		達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	210	180	180	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			210	180	180	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	394	338	338	
	受益者		(B)	533	533	533	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・猿による農作物等の被害は年々増加傾向にあり、生活環境をも脅かされており市民ニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・類似の事業は他にない。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	C	・モンキー犬の頭数減に伴い、出動回数が減少傾向にある。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	C	・専門の訓練所以外にモンキー犬を育成する方法とともに、定期的な再訓練が必要である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・有害鳥獣対策における防除事業の強化は、市長公約に位置づけられ緊急の課題となっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・モンキー犬を地域内に平均的に配置して事業効果を高めるため、モンキー犬の増頭育成とハンドラーの後継者育成が重要である。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・補助金に頼らず自主的運営に向けた取り組みを進める必要がある。
----------------------	---------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・関係団体の会議等において、獣害対策意識の高揚啓発を図り後継者育成を推進する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	54199	地域生活道路環境保全事業 (農道分)	担当課	朝日支所基盤産業課	内線
	54199				3641
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	5 農業水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4 農業土木費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1 農業土木総務費		O	D その他事業
根拠計画	地域振興計画				
市長公約	該当なし				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	農道利用者	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか(意図)	農道を安全かつ円滑に利用する。		
概要	事業の実施手法(手段)	広域営農団地農道の交通安全確保のための除草 W=1.0m		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	広域営農団地農道の交通安全確保のための除草(A=5,800m)をおこなった。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	除草面積	m ²	目標値	5,800	5,800	5,800
				実績値	5,800	5,800	-
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-
				目標値			
	活動指標	算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
	活動指標	算出根拠等		目標値			
				実績値			-
	活動指標	算出根拠等		達成率(%)			-
				目標値			
	活動指標	算出根拠等		実績値			-
				達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 378	378	400		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト指標	一般財源		378	378	400		
	受益者1件当たり(円)		(A/B)				
コスト指標	受益者						
	農道利用者		(B)				

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・広域農道整備事業が全線未完成のため、現在のところ交通量が少ない。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・当該農道については、市が管理している。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・必要な除草を実施し、交通の安全を図っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターに委託することにより、コスト縮減が図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・シルバー人材センターに委託することにより、高齢者の就業機会の創出が図られている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・広域農道整備事業が全線完成すれば交通量がさらに多くなり、安全や景観保全を実施する必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・農道の草刈りについては、地域や営農者による自主的な維持管理を求める必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・特に危険な箇所や景観の悪い場所を重点的に実施する。
-----------------	----------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	72299	地域生活道路環境保全事業 (市道分)	担当課	朝日支所 基盤産業課	内線	3641
予算	会計	1 一般会計	特別 予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 道路橋りょう維持費		O D	その他事業	
根拠計画	地域振興計画					
市長公約	該当なし					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民および道路通行者	対象者数	不特定多数
	どういう状態にしたいのか(意図)	・沿道景観を保持する。 ・「さくらロード」「もみじ街道」の景観保持および植樹帯の保護。(国・県道)		
概要	事業の実施手法(手段)	・町内沿道の清掃および草刈り。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	・町内市道14路線L=31,900mの沿道草刈り。					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	沿道草刈り	回	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
	活動指標	草刈り面積	㎡	目標値	60,000	64,000	64,000
				実績値	60,000	64,000	-
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				目標値			
	算出根拠等			実績値			-
				目標値			
算出根拠等			実績値			-	
			目標値				
算出根拠等			実績値			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 947	947	1,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		947	947	1,000		
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 506	515	552		
	受益者		4/1現在の朝日地域住民 (B)	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・沿線の景観保全とドライバーの視野拡大。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市道沿線を保全するため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・年2回の草刈り実施が理想だが、予算的に達成できない。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・シルバー人材センターに委託することにより、コスト縮減が図られている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	・市長公約および総合計画がない。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 8	→	100点換算	88 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・限られた予算の中では事業量に限界があり、地域住民にお願いするところが多いが、当該路線の多くは過疎・高齢化地域であり、住民に依頼するには無理がある。 ・緊急雇用創出事業の活用。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市全体のバランスを考慮し、一般予算で実施しているものとの整合を図って実施する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・特に危険な箇所や景観の悪い場所を重点的に実施する。
-----------------	----------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	54199	農道用地購入事業 (土地開発基金)		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算 入	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5	農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	農業土木費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	農業土木総務費		O	D その他事業	
根拠計画							
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(朝日町)	対象者数	1,812 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土地開発基金保有地(農道用地)の買戻し		
概要	事業の実施手法(手段)	土地購入費(H25年度未購入金額及びH26年度以降の利息分の合計)		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	0	0	600	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源					600	
コスト 指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)		331		
	受益者	市民(朝日町)	(B)		1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H26新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	H26新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	<input type="radio"/>	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域振興事業補助金		担当課	朝日支所 地域振興課		内線	
	種別						3611	
予算	会計	1	一般会計	特別 予算 の 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費		D	その他事業		
根拠計画								
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます。 ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興特別予算を全市域に拡大し権限と予算の地域移譲を図ります。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域の団体	対象者数	1,812 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・市民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市民自らが主体となって取り組む地域振興事業に対して補助金を交付する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	町内会 団体等	20件 9件	1738千円 1601千円			
	指標名						
		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	申請件数	件	目標値	25	25	25
				実績値	26	28	-
	算出根拠等	申請件数	達成率(%)	104	112	-	
	活動指標	補助件数	件	目標値	25	25	25
				実績値	26	28	-
	算出根拠等	申請件数	達成率(%)	104	4,500	-	
	算出根拠等		目標値				
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
算出根拠等		目標値					
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)					
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	3,306	3,195	4,500	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源			3,306	3,195	4,500		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1,765	1,738	2,483	
	受益者		(B)	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・地域の住民の手による環境整備、文化保存に対する要望は非常に多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	B	・林道の維持管理は本来市が行うべきであるが、地域住民の手による修繕事業が多い。国道、県道の環境整備については、県の事業を取り入れるべきである。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・地域の住民の自主的な手法により、地域の環境を維持していくための活動となっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・地域が計画した予算の内容を市の基準に合わせて精査し、かいぜんに取り組んでいる。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域住民が自らの地域を改善、振興することにより住みよい街づくり 活動の支援事業として地域に定着している。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		8 / 10	→	100点換算 80 点

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・市や地域が管理すべき施設以外の、県や国の施設については対応する県の事業を取り入れて、市の負担すべきコストを見直す必要がある。ただし、地域の事務的負担が大きくなる。
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・平成26年度末をもって終了予定の事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。
-----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地域で行うべき事業を精査し、地域環境の維持に必要なコストを適正化する。
-----------------	--------------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	20999	地域要望対応事業		担当課	朝日支所 地域振興課	内線	3611
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 予算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
根拠計画							
市長公約	4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます ・地域住民が自らの地域を改善、振興する活動を支援するための地域振興予算を全市域拡大し権限と予算の地域委譲を図ります。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域の団体	対象者数	1,812 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域の要望に対応し住みよい環境に整える		
概要	事業の実施手法(手段)	地域の要望によりきめ細かな施設修繕事業を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果 指 標	H25の実績	10件 6,154千円					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	事業実施した数	算出根拠等	件	目標値	20	20	17
				実績値	17	10	-
				達成率(%)	85	50	-
	算出根拠等	算出根拠等	目標値				
			実績値			-	
			達成率(%)			-	
	算出根拠等	算出根拠等	目標値				
			実績値			-	
			達成率(%)			-	
	算出根拠等	算出根拠等	目標値				
			実績値			-	
			達成率(%)			-	
	算出根拠等	算出根拠等	目標値				
実績値					-		
達成率(%)					-		
補足事項							
コスト 内 訳	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A) 14,000	6,154	10,300		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		14,000	6,154	10,300		
コスト 指 標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 7,475	3,348	5,684		
	受益者 地域の団体		(B) 1,873	1,838	1,812		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市民が要望する事業であり、住み良いまちづくり事業としてニーズは高い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市が管理すべき施設の修繕である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・市民が要望する事業であり、住み良いまちづくり事業として充分達成している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・最小の費用で最大の効果を上げるよう取り組んでいる
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市民が要望する事業であり、住み良いまちづくりの政策として重要性は高い。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		
合計		10 / 10	→	100点換算 100 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)

(参考) H25事業評価結果(二次評価)
・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、平成27年度以降の対応を検討する必要がある。

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況
・地域の要望に迅速にきめ細かく対応できる事業であるため、速やかな実施を行う。

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	51399	土地借上料	担当課	朝日支所 基盤産業課	内線
	1	一般会計			3631
予算	会計	1	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事
	款			○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目			D	その他事業
根拠計画					
市長公約					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び競技関係者	対象者数	1,812 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	施設用地借上		
概要	事業の実施手法(手段)	市の基準単価を上回る土地賃貸借		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績	高齢者若者センター施設用地 1,432 市営鈴蘭シャンツェ施設用地					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	土地借上げ	㎡	目標値	28,454	28,454	28,454
				実績値	28,454	28,454	-
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
				目標値			
				実績値			-
				算出根拠等	達成率(%)		
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出(千円)		(A)	898	880	874	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			898	880	874	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	479	479	482	
	受益者	朝日市民	(B)	1,873	1,838	1,812	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外		
		B (1) ある程度のニーズがある			
		C (0) ニーズが低い			
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市有の施設として維持管理	
		B (1) 一部見直しが必要である			
		C (0) 市が実施する必要性が低い			
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外		
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている			
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	市の基準となるよう、地権者と交渉中である。	
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外		
		B (1) ある程度効果があった			
		C (0) あまり効果が見られなかった			
合計		3 / 4	→	100点換算	75 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	市の基準を上回っているため単価交渉をする必要がある。
---------------------------------------	----------------------------

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・市の基準に近づけるよう単価交渉をする必要がある。
----------------------	---------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・市の基準に近づけるよう単価交渉をする必要がある。
-----------------	---------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定